

東日本大震災支援の状況について

3月11日東北地方を中心に大きな被害をもたらした大震災。その被害の大きさからは復興への道がまだ見えない状況です。

町では災害発生後より物資の支援や職員の派遣を開始し4月の臨時議会では新たな対策への補正予算が可決され継続した対応を行っています。被災者を町へ受け入れる準備も進め、安平町として少しでも被災地への支援を継続したいと考えております。

◎町の支援策

・物資の支援（毛布などの生活用品・食糧（水・災害用備蓄品等））

・職員の派遣 ※4月末（被災地での支援4名・民間事業者への同行1名）

◎その他の支援

・消防職員の派遣（救急隊2名・消火隊1名）

・安平町、安平町社会福祉協議会、日本赤十字社安平町分区分、共同募金会安平町分会共同で町内全戸に募金依

頼実施。

※募金活動は学校等でも実施されています。

追加して実施する支援策

- 被災者の受入支援
- ・町内の公営住宅などへの受入れ対策（左表のとおり）
- 被災者への生活援助策
- ・生活費として 商品券
- ・保育園等の入園料や保育料の免除
- ・給食費の免除

受入可能住宅（4月末現在）	数
北町改良公営住宅	2戸
おためし暮らし住宅（※1）	1戸
スポーツ合宿所（※1）	8室
・被災者が入居の場合は、敷金や入居後3か月間の家賃が免除されます。（引き続き受入れ可能住宅の確保を行っています。）	
※1 6月下旬までの利用に限ります。	

災害地派遣任務を終えて

4月から役場職員の派遣を行っています。

現地の様子や活動内容の報告についてご紹介します。

4月1日～9日

派遣職員

上田健司（教育委員会）

派遣先 宮城県山元町

活動内容

避難所の宿直業務

苫小牧港から仙台港へフェリーで移動し、そこから高速道路で1時間ほどかけ山元町に向かう。

高速道路から見えた農地には、津波で流された車がゴロゴロと転がり、報道で伝えられていた様に建物が壊れ、道路は波打ち、がれきの山は想像以上でそれを見た驚きはとでも大きかったそうです。

主に夜間の宿直業務を山元町職員と行ったそうですが、『助かります』と迎えてくれた言葉や、震災後ほぼ24時間働く職員が疲れを見せず頑張っている様子も印象に残ったそうです。

被災者との交流で「来た甲斐があった」と思えたそうです。



役場庁舎前で行われた出発式（4月1日）

ですが、避難所環境は決して良くはなく、休まる時間も無いのが現実だったそうです。

「震度5強の地震はすごかった」と体験した地震のすごさと、停電により暗闇となった避難所での夜の恐怖も現地での支援活動を終えた報告の一つでした。

消防署では、震災直後から現地に署員の派遣を実施。

3月16日～22日

派遣署員

若松淳 救急救命士

派遣先 宮城県石巻市

活動内容 救急隊

震災直後、仙台港や道路が寸断された状況の中、秋田港から救援車輛限定の高速道路を使って現地入りしたそうです。

市内は停電、かわら屋根が落ちていた家屋、数キロにも

全国の消防隊員が寝泊りしているエアータント。電気や水は無く、すべて持ち込んだ機材や食糧で活動を行う。



続くガソリンスタンドへの車の列が現地の様子でしたが到着した消防車輛の列を見て手を合わせる人、お辞儀をする人などがとても印象的な光景だったそうです。

津波により現地の救急車輛はすべて流され、全国から集まった30隊程の体制で急病人やケガ人の搬送を行ったそうですが、1日70～80件の出動があり、がれきの中を捜索する人たちが怪我をすることも多かったです。

3月25日～31日

派遣署員

長幡雅彦 救急救命士

派遣先 宮城県石巻市

活動内容 救急隊

現地の様子はあまり変化はなく救急出動の回数も依然多い中、怪我人より避難場所などで体調を崩す方が増えてきた印象を受けたそうです。